

カメラアングル CAMERA ANGLE



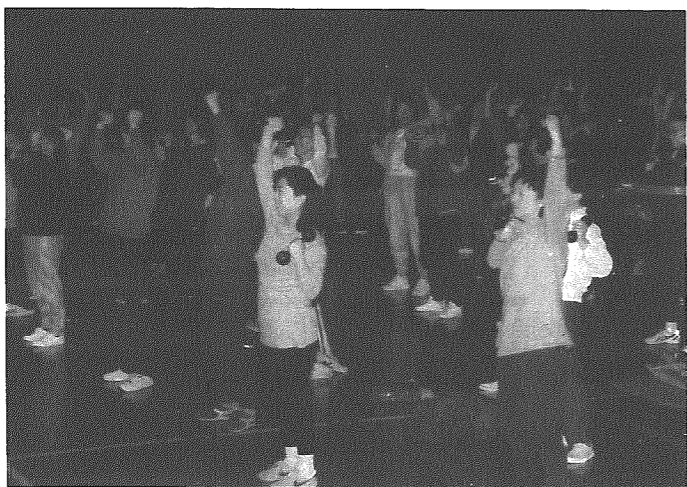
昔話にも耳にする 酒呑み地蔵のぐい開帳

三月二十日、小杉の法幢寺で年に一度の酒呑み地蔵のご開帳が行われました。

高さ約三十二センチメートルの木造造りである酒呑み地蔵は、「越後の郷土昔ばなし絵本」や、テレビでおなじみの「日本昔ばなし」等でも取り上げられ、村内をはじめ近隣の市町村、遠くは県外の信者もあり、小学生が

社会科の勉強に訪れることもあるということだ。

当日は、子供からお年寄りまで二百名余りの人達が本堂に集い、読経が続くかと思いきいの願いを込めて、次々と酒呑み地蔵にお参りをしていました。その後は、子供たちがお待ちかねの、お菓子まきが盛大に行われ賑わいをみせました。



大盛況 話題の「ダンベル体操」 鈴木教授による特別講習会

三月三十一日、総合体育館で「ダンベル体操特別講習会」が開催されました。

この講習会は、村教育委員会が平成七年度開催していた「健康体力づくり教室」(二コース)の総仕上げとして特別に企画したもので、講師には、ダンベル体操の生みの親、筑波大学の鈴木正成教授をお招きしました。

会場には村内外から一八〇名の受講者が集まり、ユーモアを交えた講師の指導に参加者からは笑い声が出るなど終始楽しい雰囲気で行われました。また、受講者からは数多くの講師への質問も出され、熱の入った講習会となりました。

「鳥の目」と「虫の目」で 経済動向を見極める

三月二十二日、横越村商工会館で同商工会主催の講演会が行われ、会員を中心として三十名余りが参加しました。

講師には、新潟日報経済記者クラブキャップである小町孝夫氏をお招きして「裏から見た県内経済(今年の見通し)」と題して次のような講演が行われました。

日本の経済の動向を見極めるには、例えば県内すべての状況から企業全体を見るマクロ的な視点、すなわち「鳥の目」と経

済を支えている根底の企業単位でとらえるミクロ的な視点、すなわち「虫の目」の両方を兼ね備えていることが必要とのことでした。

景気については、不景気であると言われながらも、昨年と比べると元気を増してきているとのこと。しかもそれは、半導体の産業に顕著に現れ、パソコン、インターネット等のマルチメディアの急速な伸びにつながっているとのことでした。



スポーツ傷害の予防 「テーピング技術を学ぶ」

三月二十四日、総合体育館でテーピング技術講習会が開催されました。

この講習会は、スポーツ傷害の予防とケガをしたときの効果的な処置法を習得することを目的に村体育協会が主催したもので、講師には東京から伊藤高氏(ソニーアスレチック)をお招きしました。

講習会には、スポーツ少年団指導者や各種スポーツクラブのリーダーや現役選手など三十名が受講され、理論や実技を熱心に習得していました。

「テーピング」とは、主要関節部分を布製のテープを使って固定することによって、傷害やケガの予防、処置を行う技術です。

